

# 「体験の風をおこそう」運動

国立青少年教育振興機構

## 1 「体験の風をおこそう」運動とは

近年、社会が豊かで便利になるなかで、子どもたちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している状況を踏まえ、子どもたちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝え、さまざまな体験の機会や場の拡充など体験活動の推進についての社会的機運の醸成を図る運動です。

## 2 なぜ、今、体験が必要なのか

国立青少年教育振興機構（以下「機構」という。）では、幼児期から義務教育修了までの各年齢期における多様な体験とそれらを通じて得られる資質・能力（「体験の力」）についての関係性を把握し、学校や地域、家庭において、どのような体験が重要になるのかについて調査研究を実施しました（機構「子ども体験活動の実態に関する調査研究」平成22年10月）。

この調査の結果、子どものころの体験が豊

富な大人ほど、やる気や生きがいをもっている人が多いことがわかりました（図1、図2）。その一方、年代が若くなるほど、子どものころの自然体験や友だちとの遊びが減ってきていることもわかりました（図3、図4）。

また、別の調査（機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」平成22年10月）では、自然体験、生活体験、お手伝いが豊富な小中学生ほど、道徳観・正義感が強いということもわかりました。これらの調査結果から、今まさに、子どもたちの健やかな成長のためには、さまざまな体験が必要だと言えます。

## 3 青少年体験活動推進宣言

機構では、「体験の風をおこそう」運動を推進するため、中央青少年団体連絡協議会、自然体験活動推進協議会及び全国青少年教育施設協議会と連携し、体験の風をおこそうフォーラム実行委員会を立ち上げ、平成22年2月に「体験の風をおこそうフォーラム」を、国立オリンピック記念青少年総合センターで

【成人調査】

図1 子どものころの「自然体験」と現在の「意欲・関心」

なんでも最後までやり遂げたい（現在）

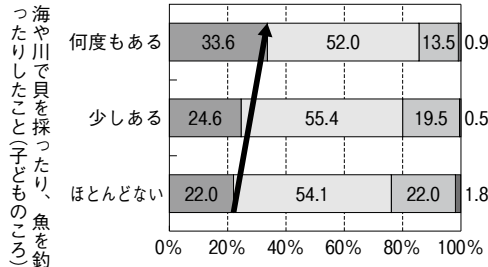
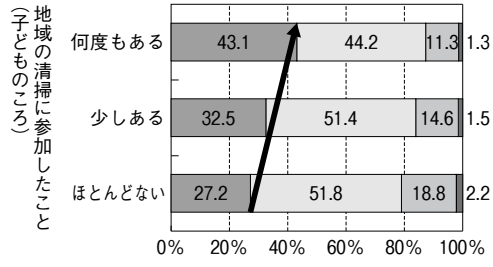


図2 子どものころの「地域活動」と現在の「職業意識」

できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う（現在）



とてもあてはまる
  ややあてはまる
  あまりあてはまらない
  まったくあてはまらない

●子どものころの体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいをもっている人が多い

【成人調査】

図3 中学校の時期に「海や川で泳いだこと」

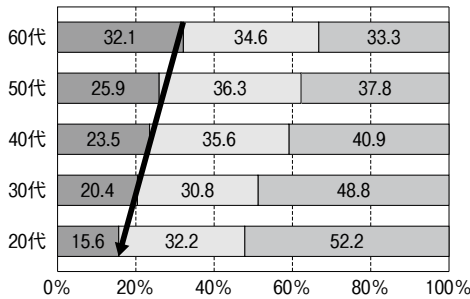
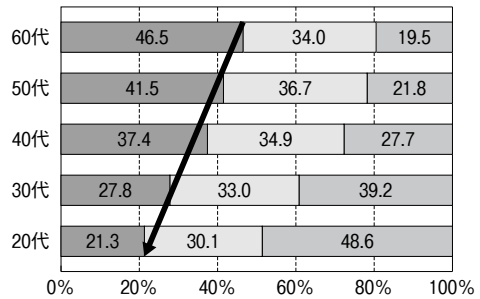


図4 小学校高学年の時期に「すもうやおしくらまんじゅうをしたこと」



何度もある
  少しある
  ほとんどない

●年代が若くなるほど、子どものころの自然体験や友だちとの遊びが減ってきている

開催しました。このフォーラムでは、「今、なぜ青少年にとって体験が必要なのか」「体験をとおして得られるものは何か」について改めて確認するとともに、青少年体験活動推進宣言を採択しました。

青少年体験活動推進宣言（抜粋）

一 私たちは、青少年の社会的自立を目指す多様な体験活動の機会を提供します。

- 一 私たちは、新たに青少年体験活動推進月間を設定するなど、青少年に対する体験活動の必要性・重要性を広く家庭や社会に発信します。
- 一 私たちは、青少年の体験活動の推進に寄与する施設・団体間の連携を図ります。

※宣言の全文は、「体験の風をおこそう」運動ホームページ (<http://www.niye.go.jp/services/taikennokaze/>) に掲載されていますのでご覧ください。

#### 4 体験の風をおこそう運動推進委員会

青少年体験活動推進宣言を受け、平成22年5月に、体験の風をおこそうフォーラム実行委員会の構成団体に、全国公民館連合会、全日本社会教育連合会、全国子ども会連合会、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟が加わり、体験の風をおこそう運動推進委員会（委員長：松本零士氏（漫画家））（以下「推進委員会」という。）を立ち上げ、同年8月には、日本海洋少年団連盟が加わり、社会全体で体験活動を推進しております。

#### 5 体験の風をおこそう推進月間

##### (1) 体験の風をおこそうフォーラム

平成22年以降、推進委員会において、10月を「体験の風をおこそう推進月間」と定めて、全国各地で子どもたちや家族と一緒に体験できるイベントや、子どもたちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝えるフォーラム等を実施してい

ます。

平成23年10月16日（日）には、「体験の風をおこそうフォーラム」を国立オリンピック記念青少年総合センターで開催し、文部科学省の城井大臣政務官からあいさつをいただくとともに、青少年団体関係者、社会教育団体関係者、地方自治体の青少年行政担当者、学生等約140名が参加しました。

フォーラムの前半では、小林誠氏（高エネルギー加速器研究機構特別荣誉教授、ノーベル物理学賞受賞（平成20年））から、「発想の多様性を大事に」と題して基調講演があり、これまでの研究の知見をもとに、ノーベル賞に輝く新しい理論に到達するに至った考え方が紹介されました。

フォーラムの後半では「子どもの頃の体験の重要性と体験の機会の提供」と題したパネルディスカッションが行われ、早川信夫氏（NHK解説主幹）のコーディネートのもと、秋山豊寛氏（宇宙飛行士、ジャーナリスト）、岡島成行氏（機構青少年教育研究センター長）、黒川伊保子氏（(株)感性リサーチ代表取締役社長）、鈴木みゆき氏（和洋女子大学教授）、布村幸彦氏（文部科学省スポーツ・青少年局長）の5名（50音順）がパネリストとして参加しました。

パネルディスカッションにおいては、各パネリストからの研究等の発表をもとに、指導者の育成が大事であること、体験と感動なしには脳は育たないこと、体験が必要であることを発信しつづけることの重要性が示されたほか、発達段階に応じた体験の機会の提供に

すべての大人がかかわること、大人が体験することを楽しむ姿を子どもたちに見せることの必要性などについても議論され、今後の体験活動の推進にあたって参考となる知見が数多く得られる機会となりました。

## (2) 子ども体験遊びリンピック

子どもと家族と一緒に参加できるイベントは、10月に数多く開催されていますが、そのなかでも第4土曜日は全国統一イベントデーとしています。

平成23年10月には「体験の風をおこそうフォーラム」以外に、体験の風をおこそう推進月間関連事業として、全国で188団体が249事業を実施しました（平成23年11月2日現在の登録事業数）。このうち、子どもと家族と一緒に参加でき、かつ競技性のある体験活動を種目とした「子ども体験遊びリンピック」は、149団体が189事業を実施しました。

「子ども体験遊びリンピック」では競技種目ごとに、上位3位までの入賞者に、推進委員会の松本零士委員長がデザインした賞状とメダルを贈呈しています。これらのエントリ

ー方法につきましては、「体験の風をおこそう」運動ホームページ等でご案内しています。各公民館においても平成24年10月に実施するイベントに、「子ども体験遊びリンピック」をとり入れてみてはいかがでしょうか。

## 6 国民運動として推進

「体験の風をおこそう」運動の取り組みにつきましては、政府インターネットテレビ (<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg5366.html>) で動画を配信していますので、こちらもあわせてご覧ください。

「体験の風をおこそう」運動の推進には、家庭、地域、学校、行政など、多くの皆様のご協力・ご支援が不可欠です。機構そして推進委員会では、子どもたちの健やかな成長のため「体験の風をおこそう」運動が、新たな国民運動として定着するよう努めていきますので、公民館関係者の皆様におかれましても、国民運動として推進するうえでの強力な推進役として引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。

第2回あつまれ！秋のキッズフェスタ（会場：国立オリンピック記念青少年総合センター）



オープニングステージ（リズムダンス）



子ども体験遊びリンピック（豆つまみ皿うつし）